

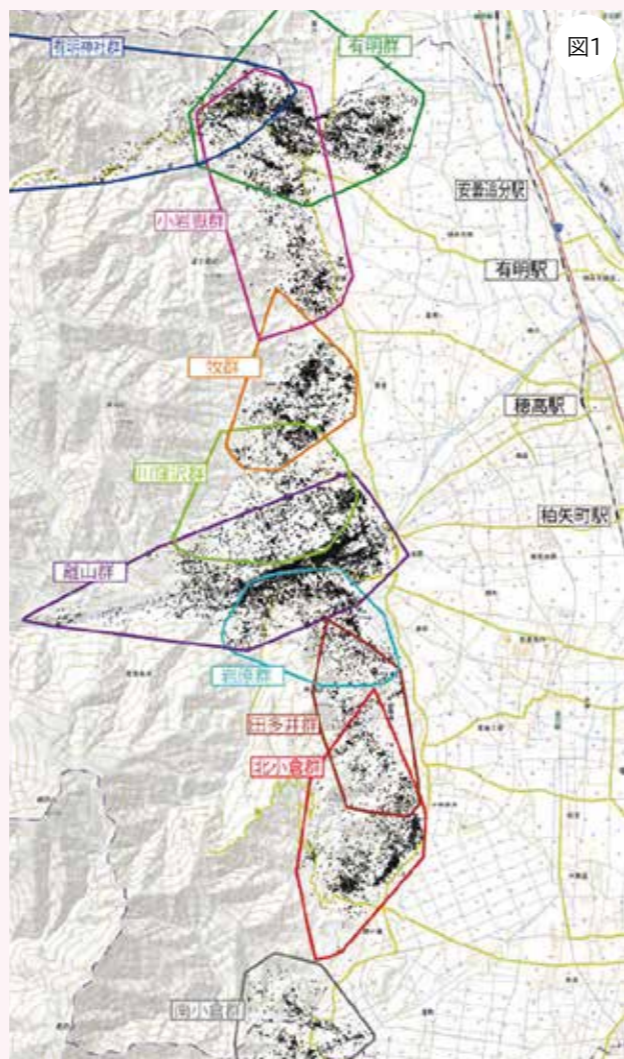
# 1 1年間の活動レポート

## サルは山側に向かっていく

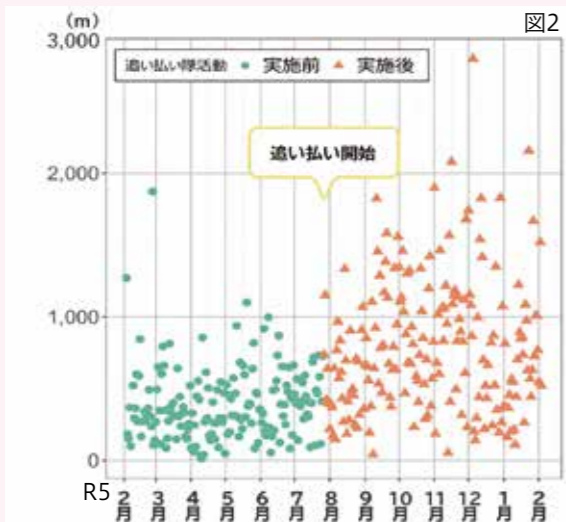
西山山麓に生息するサルの群れは、そのほとんどが山と里の境界付近に滞在しています(図1)。国営アルプスあづみの公園付近に出没する「離山群」は最大規模の群れ。また、有明地域では「有明神社群」「小岩嶽群」「有明群」の3つが生息しています。

追い払い実施前後のサルの移動距離(図2)を比較すると、実施前は集落側に98%いたサルが実施後には76.3%まで減少していることが分かりました。追い払いの継続で、少しずつサルの滞在位置を山に戻すことができています。

(資料提供:株BO-GA)



サル群れの滞在位置



追い払い実施前後のサルの移動距離



# 里に出没する頭脳系獣集団に対抗

# サルの被害を消しサル!!

# ニホンザル追い払い隊



近年、全国各地で相次ぐサルによる被害。市内でも西山山麓で農作物を荒らしたり人を威嚇したりする被害が問題となっています。市ではその対策として昨年8月に「ニホンザル追い払い隊」を結成しました。今回の特集では、1年間の活動から分かってきた変化や効果的な対策などを紹介します。

### 農作物は「魅力的なエサ」

本来山の中で暮らすサルは、群れが生息するテリトリーの中でエサを確保します。しかし近年、遊休農地が増えたことで山と里の境界があいまいになり、里にやってくる状況に。群れの生息域も山の中から里までの広範囲となっています。

サルは一度農作物を食べると「おいしいもの」と認識します。しかも山で取るエサより量も多く栄養があり、サルにとっては魅力的。その結果、怖がりながらも里へ下り、農作物を食い荒らしています。

### 全国でも注目の活動が始動

国や県が示すサルの被害対策には、その地域に住む人が主体的に取り組むこととされています。しかし、別荘など生活の拠点が市内にない人も多いという安曇野特有の生活スタイルや、捕獲に対して否定的な考えを持つ人など、意見の多様性によって地域ぐるみで対策することが難しくなっています。

この状況がありました。

この状況を打開しようと組織されたのが「ニホンザル追い払い隊」。サルの追い払いは有効な対策として全国各地で行われていますが、自治体規模で行う事例は珍しく、注目を集めています。現在は95人の隊員が交代で、毎日追い払いをしています。

### 判明してきたサル群れの情報

市では、追い払いを効果的に行うため雌のサルにGPS発信機を取り付け、群れの位置を把握しています。これにより、里に下りてきて被害を及ぼす群れは10群ということが分かってきました。また、群れの頭数は40から50が一般的といわれますが、市内には個体数が100頭を超える群れもあることが分かりました。一方、追い払い隊が結成して1年、地域の皆さんの協力もいただきながら活動してきた結果、徐々にサルの生息範囲が山側へ移ってきていることも分かってきました。

近づいていき距離をつめたり、怖い場合は爆竹や花火、エアガンなどを使用したりしてください。複数人で行うとより効果的です。

### Q 追い払いなんて意味があるの？

A あります。サルに警戒心を与え、里とサルの住む境界線を理解させることがサル被害を無くすカギとなります。今後もより高い効果が現れるよう活動を継続していきます。

### Q 追い払うより捕獲した方が良いのでは？

A 捕獲も当然必要な手段です。サル対策は捕獲、追い払い、防除の3つを組み合わせることが効果的です。しかし、エサとなるものが放置されている状況ではその効果が低減します。防護柵などで農作物や果樹を守る「防除」を一人一人が行うことも重要な対策です。

# 2 Q&A

## よくある疑問にお答えします

### Q サルを見かけたらどうしたら良い？

A サルを家の近くで見かけたら、すぐに追い払ってください。被害がないからそのままにしておくと、だんだん人間に慣れて怖がらなくなります。現状市内に出没するサルは、威嚇はするものの襲い掛かってくることはなく、人間が近づいていくと逃げていきます。追い払い方法としては、サルに対して

